

令和4年度 新見高等学校(北校地) 具体的計画

番号	分掌	具体的計画と取組	現状分析	今年度の達成基準 【評価指標】	中間評価		最終評価			
					達成状況・今後の対応	評価	達成状況	評価	結果の分析及び改善方策	総合評価
1	学校経営目標	1 校地間、学科間、学校と地域や家庭の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進 特に校地間・学科間の「融合」に向けた取組の推進 2 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫 特に1人1台端末の有効な活用方法の研究 3 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成 特に地域連携活動の継続発展 4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開 特に「新見高校広報全体計画」に基づいた広報活動の継続発展								
	教務課	校地統合に向け、教務課関係書類等 昨年度内規を全面改定し、校地統合に向けて大きな一歩を進めることができたが、令和5年度用内規へのマイナーチェンジが必要。また、教務関係の書類(業務指示など)について、現在南北異なるものを統一化する必要がある。	令和6年度校地統合に向けて ①令和5年度用内規の完成 ②南北で異なる教務関係書類等の洗い出し ③②について統一化、あるいは令和6年度に向けての統一スケジュールの作成 A:①②③ B:①② C:①	①については、各担当へ連絡済み、年内に必要な協議を終え、年度内に完成予定。 ②、③は完了。スケジュールに沿って統一化を進めている。	B	①については3月までに完了予定。 ②、③は完了。	A	予定したことは概ね完了した。スケジュールを作成した教務関係書類等の統一化は引き続きスケジュールに沿って進めていきたい。また、校地統合に向け、すり合わせが必要な案件が新たに出ると予測されるので、その都度スケジュールを作成しながら統一化を進めていきたい。		
	よりよい授業を目指す取り組み 教員相互で取り組める授業向上に向けた取り組みの推進	新学習指導要領のもとで必要とされる学力に対応できるよう、指導力の向上を目指す必要がある。また、校地統合に向けて、授業をスムーズに展開するための準備を必要とする必要がある。	①iPadの活用方法の紹介 ②公開授業の企画:年間25回以上 ③公開授業の見学:年間75件以上。 A:3つの達成 B:2つの達成 C:Bに満たない	① 0件 ② 7件 ③ 17件 iPadの活用方法については、教科での実践例を集約し、公開授業等でも紹介できるような取り組みを行いたい。また、情報機器管理係と連携を図り、研修会を計画したい。	C	① 1件 ② 9件 ③ 48件 iPadの活用方法については、情報機器管理係と連携を図り1回研修会を行った。公開授業の計画は少なかつたが、iPadを有効に活用した授業実践で今後の参考になるものであった。	C	日頃から、個々の教員は生徒の実態に合った授業研究に取り組み、工夫した授業が行われているが、公開授業の企画や見学が増えないのは残念である。今年は例年の3/4程度であった。声かけだけでなく、取り組み方の検討をしたい。 来年度は2学年iPadを持つことになる。南校地を参考に活用方法について研究したい。		
生徒課	令和6年度、生徒会組織の融合に向け、生徒会役員選挙の日程、役員任期変更を5年度実施の生徒会役員選挙までに生徒に周知し組織改編を実施する。南校地生徒会と協議しながら実現可能な日程を模索し実現する。	生徒会選挙が南校地は5月、北校地は11月に実施している。校地統合がされれば、生徒会組織も一つになり役員選挙も北校地5年度実施の任期に変更が必要になる。	5年度実施の生徒会役員選挙日程を4年度実施の北校地役員選挙までに決定し来年はこうなることを生徒に周知する。 A:役員選挙時に来年はこうなることを周知 B:年度末までに周知 C:周知できない	北校地の中で集約中の状況。少し遅れているが2学期当初に生徒課内で意見をまとめたい。	C	北校地役員選挙までには間に合わなかったが年度末に向けて実施時期を決定している。	B	校地統合に向けて今は文化祭日程について検討中である。実施時期により内容の変化を伴いそうであるが来年度夏までにはそれらも確定していきたい。	B	
2年次団	【計画】 成人として社会人として通用する基本的な生活習慣の確立を目指す。 【取組】 企業が求める人材の条件の一つとして、確かな学力はもとより体調管理・自己管理(遅刻欠席等)ができる能力を求められている。保護者等からの遅刻欠席連絡が8:50までに学校に入らなければ担任や副担任から保護者等に確認の連絡を入れる。	コロナ禍で出席停止等の扱いが変化し休むことにあまり抵抗がない傾向があり、遅刻欠席の状況はクラス(科)によって差がある。 体調管理・自己管理も大切な能力であり、3年間で欠席日数が10日以上ある場合はマイナス要因としてチェックされ、不利になることを生徒自身に今一度認識させる必要がある。 いろんな場面で進路実現に向けて具体例を挙げて生徒に言い続ける。	一カ年皆勤 A科: 0/19 (0%) T科: 17/35 (48.6%) B科: 1/10 (10.0%) 平均: 18/64 (28.14%) (岡山県学校管理システム欠課時数一覧より) ↓ 昨年度より皆勤を増やす	1学期皆勤 A科: 2/18 (11.1%) T科: 28/35 (80.0%) B科: 2/10 (20.0%) 平均: 32/63 (50.79%) (岡山県学校管理システム欠課時数一覧より)	B	2学期皆勤 A科: 4/18 (22.2%) T科: 20/35 (57.1%) B科: 0/10 (0%) 平均: 24/63 (38.1%) (岡山県学校管理システム欠課時数一覧より) 3学期の出欠が確定していないので評価はできません。	B	コロナ禍で出席停止等の扱いが変化し抵抗なく休む傾向が益々強くなり、コロナ禍以前の皆勤と出席扱いでの皆勤とは意味合いが大きく違うと思う。また、遅刻欠席の状況はクラス(科)によって差が出てきている。 体調管理・自己管理も大切な能力であり、進路選択では3年間で欠席日数が10日以上ある場合はマイナス要因としてチェックされ、不利になることを生徒自身に今一度認識させる必要がある。 いろんな場面で進路実現に向けて具体例を挙げて生徒に言い続ける。		

番号	分掌	具体的計画と取組	現状分析	今年度の達成基準 【評価指標】	中間評価		最終評価			
					達成状況・今後の対応	評価	達成状況	評価	結果の分析及び改善方策	総合評価
2	厚生課	【計画】 Google formsによる健康観察を90%以上送信させる。 【取組】 毎朝の玄関前での声掛けと、担任指導により送信率向上を図る。	昨年度の送信率は60%台であった。	A:送信率90%以上 B:送信率80%～89% C:「B」を満たさない	【1学期終了時点での送信率】 4月 639/984 5月 1483/2337 6月 2641/3588 7月 1480/1815 TOTAL 6243/8724 71.5%	C	【2学期終了時点での送信率】 9月 2786/3280 10月 2441/3118 11月 2721/3116 12月 2463/2788 2学期 10411/12300 84.6% 1.2学期 計16654/21024 79.2%	C	2学期からは担任に直接体温結果を入力してもらい、劇的に率の向上がみられた。来年度以降は1学期当初から未測定者に対する対処を徹底し、目標の90%以上をクリアしたい。また、Formsの書式についても南北違うものを使用しており、関係者で協議し統一させていく。	B
	進路指導課	「入れる会社・入れる学校」ではなく、「やりたい仕事・やりたい勉強」へ。進路選択決定をとおして、自らと真剣に向き合い、結果として満足度の高い進路選択ができるようにする。各種ガイダンス・学習会などで、考えるきっかけを多く用意し、満足度の高い進路選択を目指す。	先行き不透明な中、就職・進学ともに、「早く」「楽に」決まるところに目が向きやすい。就職選考で学科試験を課す企業を避ける傾向がある。	3学期に行う「満足度アンケート」の結果が A:90%以上 B:70%以上 C:70%未満	現在進行中	—	決定した進路の満足度 満足・概ね満足…98% やや不満 … 2% その理由(複数回答) 希望が実現した …56% よく相談し、よく考えて決定した …26% 努力し、自分を高めることができた…17% 自分を高める努力が不足していた…1%	B	3年生の進路決定については満足度は高かったが、「やや不満」な者も1名存在した。また、1・2年生への働きかけが不足しており、進路意識を高めることができていない。	B
	2年次団	【計画】 進路実現に向けて計画を自分自身でしっかり立て、それを実行できる。 【取組】 担任や科を中心に資格取得の奨励を通じ進路実現に向けて計画を早期にたてさせ、それを実行に向け指導する。	昨年度の各科の資格所得状況(合格率) A科 日本農業技術検定3級:6/18(33.3%) T科 基礎製図検定:17/24(70.8%) インフラ調査士補(初級):24/24(100%) B科 全経簿記実務検定3級:2/5(40%) 全商簿記実務検定1級原価計算:2/5(40%) 全商簿記実務検定1級会計:2/5(40%) 全商情報処理検定1級ビジネス部門:3/10(30%) ※主な資格のみ記載	年間の資格取得の合格率が A:各科の資格の半数で上回る B:各科の資格の半数で現状維持 C:各科の資格の半数で下回る	各科の資格所得状況(合格率) ○A科 日本農業技術検定3級:2/5(40.0%) ○T科 基礎製図検定:9月受験予定 インフラ調査士補(初級):12月受験予定 ○B科 全経簿記実務検定3級:希望者なし 全商簿記実務検定1級原価計算:0/5(0%) 全商簿記実務検定1級会計:1月受験予定 全商情報処理検定1級ビジネス部門:1月受験予定	—	各科の資格所得状況(合格率) ○A科 日本農業技術検定3級:2/5(40.0%) ○T科 基礎製図検定:29/35(82.9%) インフラ調査士補(初級):30/30(100%) ○B科 全経簿記実務検定3級:希望者なし 全商簿記実務検定1級原価計算:0/5(0%) 全商簿記実務検定1級会計:0/10(0%) 全商情報処理検定1級ビジネス部門:1月受験予定	B	進路実現に向けての意識が低く履歴書の資格取得欄に書ける資格が少ない生徒は7月までに取得できる資格を案内したい。また、どうしても取れない生徒は自分の強みを面接で言えるように準備をさせたい。	B
	総合ビジネス科	資格取得を通じて知識・技能の確かな習得を目指す。またPCを使用して学習の流れや展開を知らせ、思考力・判断力の育成を目指す。	検定試験上位級の合格が難しくなっている。昨年度3年次生は3種目1級合格者が3名、2年次生は、1級取得が電卓2名、情報力の育成を目指す。	a.2年次生:全商検定2級2種目以上取得80%以上 b.3年次生:全商検定1級3種目以上取得20%以上 a・b項目で A:2項目達成 B:1項目達成 C:全項目達成できなかった。	検定自体が少ない。後半に期待する。	—	2年次生、2級2種目以上達成4名、40% 3年次生、1級2種目達成5名、26% 3種目達成1名、5% 今後まだ検定取得があるため最後まで諦めさせない指導。	B	在学中取得可能な検定は、目の前の目標であるため頑張らせたい。また2年次生は自分のキャリアと絡めて自分の能力を引き出させるようにしたい。	B
	工業技術科	資格取得において、生徒に具体的な目標設定をさせ、合格に向けた取り組みをさせる。各担当者が計画的に補習を実施して合格率を向上させる。ただし、技能検定においては、受験料が著しく高額になっているので、保護者等によく理解していただく。	昨年度のジュニアマイスター顕彰は、特別表彰1人、ゴールド顕彰6人、シルバー顕彰4人であった。 職業技術顕彰は12人であった。 工業技術顕彰は10人であった。 ジュニアマイスター顕彰制度20ポイント以上の取得人数は20人であった。 取得率21.5%(20人/93人中)	ジュニアマイスター顕彰制度のポイントが20ポイント以上(T科生徒合計78人) A:T科生徒の取得率が14%以上(11人) B:9%～13%(8人～10人) C:9%未満(7人以下)	ジュニアマイスター顕彰制度のポイントが20ポイント以上(T科生徒合計78人) A:T科生徒の取得率が14%以上(11人) B:9%～13%(8人～10人) C:9%未満(7人以下) 9月14日現在 5人	C	ジュニアマイスター顕彰 特別表彰 1人 ゴールド 3人 シルバー 3人 20ポイント以上 12人	A	T3は、2年次生から3年次生にかけて、資格検定の取得に頑張りが、すばらしい結果となった。T3は、在籍24名と少ない中での結果である。また、工業技術科の教員の指導がなければ、この結果はなかった。大変ではあるが、今後も続けたい。	B
生物生産科	1年次生のiPad導入に合わせ、iPadやGoogle-Workspace for Educaitin等の効果的な活用を学科内で検討・実践する。今年度は座学での活用をすすめ、実践事例を共有することでIOTを活用した授業の割合を増やすことを目指す。	個人での活用を行っているものもあるが、学科全体にiPadを活用した授業事例が共有されていない。学科としてどのような活用方法が効果的であるかの検討ができていない。	専門科目(総合実習、課題研究、専攻を除く15科目)の授業でiPad等のICT機器を導入した授業の実施割合で評価する。 A:80%以上(12科目以上) B:60%以上(9科目以上) C:60%未満(8科目以下)	一部の授業でFormを用いた小テストや、Jamboardを使った生徒間の意見交換に活用した。 学科の教員全体に活用が広がっていないのが課題である。 具体的な実施割合は3学期に教員アンケートを実施して評価する。	B	1年次生の専門科目すべてでタブレット端末を使った授業を実施した。全専門科目での活用割合は60%程度であった。 Jamboardを協働学習や生徒が考えをまとめる思考ツールとして活用する授業。端末に作業手順の資料を配信し、生徒が事前学習に取り組みすることが必要である。 また、タブレット端末の活用を学科の共通課題とした授業改善に取り組みのため、活用事例の研究や先達視察を行っている。	B	学科の半数の教員がタブレット端末を授業に積極的に活用することができた。各教員が作成したコンテンツや指導案の学科内での共有、教員間で協働して活用方法の研究に取り組むことが必要である。 また、タブレット端末の活用を学科の共通課題とした授業改善に取り組みのため、活用事例の研究や先達視察を行っている。	B	

番号	分掌	具体的計画と取組	現状分析	今年度の達成基準【評価指標】	中間評価		最終評価			
					達成状況・今後の対応	評価	達成状況	評価	結果の分析及び改善方針	総合評価
3	3年次団	社会人として自立していくために、基本的な生活習慣を身につける一環として、朝の遅刻や欠席をしないように指導する。あわせて、授業を大切に、時間を守らせるとともに、普段から服装や身だしなみに気をつけさせる。	現在、1年次皆勤者16名(62人中)、2年次皆勤者17名(61名中)、1・2年通年皆勤者は10名である。欠席・遅刻が多い生徒も数名いるが、全体的には少ない。また、欠席はないが遅刻・欠課があり皆勤に該当していない生徒もかなりいる。	一カ年皆勤賞 A:26名以上(60名中) B:15~25名 C:15名未満	一学期終了時点の一カ年皆勤者 A3:9名、T3:11名、B3:4名、合計24名	B	二学期においてコロナ禍の第8波の流行もあり、皆勤者が激減した。 1・2学期皆勤者数 A3:0名、T3:5名、B3:0名、計5名 3カ年皆勤者:T33名	C	2学期になり、進路も決定して、気分が少し緩んだ。欠席、遅刻者の数が顕著に増えた訳ではないが、皆勤者は激減した。授業をきちんと受けるという意味を繰り返し認識させる必要がある。	
	1年次団	計画・高校生として基本的な生活習慣を身につけさせ、朝の遅刻をしないように指導する。 取組・遅刻、欠席が疑われ連絡がない生徒に対して保護者連絡を怠らず必ず確認する。遅刻が多い生徒の担任指導。	中学時代に長期欠席した生徒が散見され、遅刻がちな生徒もおり、家庭との連携が不可欠。	年次団の年間遅刻回数(朝遅刻) A:50回未満 B:50回以上 C:80回以上	遅刻は1学期終了時点で18回、2学期は特定の生徒が目立つ程度で、50回以内には収まる見込み。長期欠席者と欠席が多い生徒が目立ち、引き続き指導する。	B	遅刻回数は、1月初旬の段階で40回に達しており、50回は超えそうである。相変わらず特定の生徒の遅刻が目立った。個々人の事情もあるものの、欠席がちな生徒や、規則正しい生活習慣が身につけていない生徒がおり、指導の苦慮した。	B	決まった生徒が遅刻する傾向が強いのので、次年度は重点的に指導する。登校時の声掛けや、回数がかさむと保護者連絡をするなどの対応をする。	
	生物生産科	「イネ作り交流」「サツマイモ栽培交流」「花植交流」を継続して実施する。合わせて中学校出前講座の対象校拡充と内容の充実を図る。特に生徒が企画段階から主体的に参加する活動になるよう指導方法を工夫する。	生物生産科では様々な交流活動に継続的に取り組んできた。その中で活動のスタイルができてきているが、反面生徒が企画段階から工夫をし交流活動を築いていくという面が失われつつある。教師主導から生徒主導の活動への転換が必要である。	生徒に事後アンケートを実施し、その肯定的評価の割合で評価する。 A:70%以上 B:60%以上 C:60%未満	これまで3つの交流活動と2つの出前講座を実施した。イモ植え交流では企画段階から生徒が積極的に参加するように改善を行った。2学期の諸活動終了後にアンケートを実施して、生徒の意識の変化を評価する。	B	生徒の事後のアンケートでは肯定的評価の割合が各項目で90%以上となった。今年度は天候により中止したものを除き、計画していた交流活動をすべて実施できた。中学校出前講座は2中学校で3講座実施した。	A	交流活動が生徒主体の活動となっていないことがこれまでの反省であった。そこでサツマイモ栽培交流において企画段階から生徒が中心となって取り組む活動へと転換を図った。その結果、事後アンケートで「主体的に取り組んだ」という項目で昨年度より改善が見られた。生徒主体の活動への転換を他の交流活動でも行っていきたい。	A
	総合ビジネス科	販売実習やインターンシップを通して、地域の良さを考える。	毎年2、3年生は、販売実習やインターンシップに力を入れているが、地域の仕事の担い手として授業を通して考えさせる。また思慮小学校児童のPC教室を少ない生徒数でも頑張らせる。	2年次生・販売実習・インターンシップをより充実できるように(今まで達成できているが、今年度も達成できるように) 3年次生・進路を見据えた販売実習	2年次生・販売実習は、生徒に地域の温かさが伝わり、また学びに向かうことが出来た。3年次生・課題研究等を通して進路につながる販売実習や商品開発ができた。	—	2年次生・販売実習・インターンシップともに生徒が自ら地域について考え行動できた。3年次生・課題研究等を通して進路につながる販売実習や商品開発ができた。	A	来年度は3年次生のみにする。地域について今まで以上に深く関与できるような課題研究に出来るように導かせたい。	
地域連携広報室	専門科では、中学校への出前授業など昨年度再開できた地域と連携した活動を可能な限り継続発展させる。 普通科では、引き続き新見市学校連携コーディネーターと連携・協働しながら、主権者教育を中心とした総合的な探究の時間の取組を発展させる。 いずれの取組においても一部の生徒の取組にならないように工夫する。	感染症対策をしながら、多くの地域連携活動を相次いで再開することができた。中学校への出前授業や販売実習、主権者教育など外部からの評価は非常に高い。担当した生徒達の地域に貢献しようとする使命感と実力の育成に多大な効果をもたらしている。一方で携わる生徒に限られており、生徒全体の力とはなりにくい側面もある。 令和3年度の学校自己評価アンケートの集計結果の肯定的評価は、生徒・保護者・教職員員の平均について、北校地は89%、南校地は84%であった。	年度末の学校自己評価アンケートの地域連携に関する項目において、次のように評価する。 A:肯定的評価が80%以上 B:肯定的評価が70%以上80%未満 C:肯定的評価が70%未満	専門科では、総合ビジネス科2年次生の販売実習など、計画されていた活動が実施できた。今後も出前授業等を行っていく予定である。また、地域連携広報室が窓口となり2年次生を対象に講演会を開催することができた。 普通科では、地元の方による講演会を4講座開くことができた。今後は主権者教育に関する取り組みが計画されている。	—	令和4年度の学校自己評価アンケートの集計結果の肯定的評価は、生徒・保護者・教職員員の平均について、北校地は84%、南校地は90%であった。 詳細については、専門科の肯定的評価は、生徒81.7%、保護者78.3%、教職員91.3%であった。普通科の肯定的評価は、生徒89.4%、保護者80.5%、教職員100%であった。	A	学校自己評価アンケートで専門科・普通科ともに80%を超す肯定的評価を得たことは評価できる。また、感染症対策をしながら昨年度よりも多くの地域と連携した活動「いこう交流事業」を行うことができた。 今後の課題としては、多くの生徒が関わられるよう工夫したが、出前授業は全員が参加できないため、一部の生徒だけでなく全体の生徒の力を高めるさらなる工夫が必要である。		
4	生物生産科	生物生産科の特色や活動を伝える学科オリジナルのリーフレットを作成し、広報活動に活用する。合わせて新見市内に限定しない広報活動を模索する。	生物生産科の取り組みは、教務課や地域連携広報室の広報活動の中で取り上げられているが、各科をバランスよく紹介する都合から、学科の魅力が掘り下げられ伝えられていない。 専門科は、通学圏内である備前線沿線(高梁、総社、倉敷)や姫新線沿線(真庭)に広報活動の範囲を広げる必要がある。	作成した学科オリジナルリーフレットの広報活動への活用度合いにより評価する。 A:リーフレットを作成し、備前地区の学校で広報活動を行う。 B:リーフレットを作成し、中高連絡会、中学校説明会、オープンスクール等で活用する。 C:リーフレットを作成する。	中高連絡会やオープンスクールで配布する資料について、学科の特色が伝わるように内容の改善をおこなった。作成した資料(リーフレット)はオープンスクールで配布し活用する予定である。 範囲を広げた広報活動については、進めることができていない。	C	学科の概要や学習活動、特徴ある活動として全国和牛能力共進会への取り組みをまとめたA4両面のリーフレットを作成した。作成時期が遅かったため、中高連絡会での配布のみの活用となった。	C	作成に取りかかる時期が遅くなったため、リーフレットの活用までは十分にできなかった。 来年度は本年度作成した原稿をもとに、内容の改善を図り、中学校説明会やオープンスクールなど学科を紹介できる場面で積極的に活用していきたい。	
	工業技術科	科の学習の成果や取り組みを、新聞やテレビなどの報道を通して魅力ある情報発信を行う。 課題研究や実習等を中心にして、校外での貢献活動や各種競技会やコンテストに積極的に参加をする。	ブログを通して科の教育活動を情報発信する。また、新聞やテレビなどのマスメディアに情報発信してもらえよう魅力ある活動をする。 昨年度は新聞、ケーブルテレビ、ラジオの報道回数は16回だった。	工業技術科の学習の成果や取り組みを新聞やテレビ等で報道される回数 A:13回以上 B:8回以上 C:8回未満 昨年度は、16回の報道回数であった。	中建日報(ドローン・舗装) 備北民報() 備北民報(測量競技大会 県大会優勝) 備北民報(タブレットスタンド) 山陽新聞() チャンネル(タブレットスタンド) チャンネル(測量競技大会 県大会優勝) 7回	C	中建日報(ドローン・舗装) 備北民報() 備北民報(測量競技大会 県大会優勝) 備北民報(タブレットスタンド) 山陽新聞() チャンネル(タブレットスタンド) チャンネル(測量競技大会 県大会優勝) テクノフォーラム(備北民報) 電気工事士第一種、第二種(備北民報) コンクリート甲子園(RSKラジオ) 10回	A	出前授業について、準備にかなりの時間を要しているが、内容が同じような場合はメディアが取り上げてくれないように感じる。来年度は、ゼロランカーを制作する予定であり、新しい取り組みなのでもっとメディアは取り上げるのではないかと、メディアが取り上げてくれると、入試にも良い影響が出る。工業技術科の取り組みは素晴らしい。	

番号	分掌	具体的計画と取組	現状分析	今年度の達成基準 【評価指標】	中間評価		最終評価			
					達成状況・今後の対応	評価	達成状況	評価	結果の分析及び改善方策	総合評価
	総合ビジネス科	学習成果や取り組みの報道を通じた情報発信を課題研究や実習等を中心として実際のビジネスに近い取り組みを行う。	閉科が2年後になり、残った生徒の活動を本校ブログや、マスコミを通して教育活動を情報発信する。	学習の成果や取り組みを新聞やテレビで報道される回数 A:5回以上 B:2回以上 C:2回未満	学習の成果や取り組みを新聞やテレビで報道される回数 現在、3年生課題研究販売実習1回、ショッパーズ2回、PC教室1回である。	—	3年次生:課題研究「販売実習」2回、PC教室1回 2年次生:販売実習ドキドキショッパーズ2回	A	来年度は3年次生のみになる。情報発信も難しくなるが、しっかり情報発信を行ってきたい。	
	地域連携広報室	新見高校広報全体計画に基づいて、広報活動を継続発展していく。	第2回オープンスクールや学校新聞を刷新したり、市報にのみ7月号にリーフレットを挟みこんだり、7月・11月に中学生保護者に対する説明会を実施するなど、広報活動の全体計画を実現できた。	11月に振り返りを行い、最終的には学校自己評価アンケートも参考に、次のように評価する。 A:広報計画が実現できた。 B:広報計画が概ね実現できた。 C:広報計画があまり実現できなかった。	学校案内、学校新聞、高校説明会、オープンスクール、中高連絡会、市報にのみ、学校紹介動画作成等、広報全体計画で掲げた事項について実施することができた。 11月に1年間を振り返り、成果・課題を検証し、次年度の広報全体計画を策定していきたい。	—	令和4年度の学校自己評価アンケートの集計結果の肯定的評価は、生徒・保護者・教職員の平均について、北校地は74%、南校地は81%であった。 予定していた広報全体計画で掲げた事項はすべて実施することができた。 さらに、今年度は県の協力を得て、学校紹介動画を作成し、様々な場面でPRL、活用することができた。	A	11月に振り返りをおこない、それを基に令和5年度の広報全体計画を策定し、合同職員会議での了承を得た。 振り返りで、次年度に向け改善点もあげられたので、次年度へ向けて具体的な準備をすすめていきたい。	